

浜田市社会教育アドバイザー 長畑 実

これまで公民館における「人づくり・郷づくり交流会」などに参加して毎回、各地域の取組に大きな感銘を受けてまいりましたが、今回の3つの事例発表も浜田市の素晴らしい「まちづくり、人づくり」の取組でした。

実践発表①

今福地区まちづくり委員会「支えあう、いま・福のある里づくりをめざして」

何よりもまちづくり委員会が目標を明確にして、まちづくりへの多くの住民参画を実現する多様な活動団体を形成していることです。サークル・教室20団体まちづくり団体8団体が無いものは自分たちでつくって楽しむというスタイルを実現しています。まちづくり委員会の5部会17団体も、有休農地の活用等地域の資源を活かして子どもから大人まで参加、交流し、多世代が活躍する工夫がされています。特に、高齢化が進む中、毎月各町内各集会所でいきいきサロンを開催し、講演・レクリエーション等活動で交流を推進する取組は非常に素晴らしい取組です。

こうした多世代が活躍するしかけづくりが持続可能な地域づくりのポイントです。

今後、インスタ、フェイスブックを開始されましたので、関係人口・交流人口を巻き込んで、持続可能な地域づくりをさらに進めていただきたいと思います。

実践発表②

三保まちづくりセンター「すまいる三保～大人も子どももつながるまちづくり～」

三保地区の自然を活用した防災デイキャンプの取組は、災害が多発する中、喫緊の課題である地域の繋がりづくりを実現する素晴らしい実践です。自然環境での体験活動は、心の強さや回復力を高め、絆を強くします。

秋の健康フェアは、高齢化が急速に進む中、専門的知識を持つまちづくりコーディネーターと連携した生きる力を育む素晴らしい取組です。

三保なべフェスタは、地域のリハビリ専門学校と連携した事業で、学生と地域の交流により関係を深め、経験を通じてお互いの成長を実現する取組です。

今後とも、地域の資源を活用し、多くの団体と連携して多様な体験活動を推進し、持続可能な地域づくりを進めていただきたいと思います。

実践発表③

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム「今なぜ、高校と地域との連携・協働が必要なのか」

子どもたちの生きる力を育成するためには、学校だけでなく、多様な主体と連携し、地域の現状・地域の課題を具体的に理解すること、多様な体験活動が必要です。コンソーシアムは対話・交流等、多様な対話と活動の機会を創出し、生徒と地域住民の生きる力を着実に育成しており、生徒と地域の未来を創生する重要な役割を果たしており、素晴らしい協働体制となっています。

今後とも、生徒と地域住民の成長を実現する多様な取組の推進を期待いたします。

さいごに

人口減少、超高齢化に加え、地震・豪雪・豪雨等の自然災害、パンデミック等、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。

まちづくりの最終の目的は、地域住民の総幸福です。

そのために、今回の事例発表でもあった、子どもから大人まで参加できる様々な仕組みづくりが必要です。地域円卓会議や住民アンケートなど多様な参画の場と仕組みを重ねることで地域力が高まり、地域の活性化につながります。まさに社会教育を基盤とした人づくり・地域づくりの出番です。

浜田市の新たな歴史を切り開く浜田市民の皆様、まちづくりセンター職員の皆様のご活躍を期待しております。